



公益財団法人日本都市センター  
「新たな地域コミュニティのあり方に関する研究会」  
**川崎市におけるコミュニティ施策について**  
2024年8月29日  
公益財団法人川崎市文化財団 中村 茂



**COLORS**  
KAWASAKI  
**Colors かわさき 2023 展**  
2023年11月10日(金) - 19日(日)



# 首都圏の中央部に位置する川崎市

## ■ 電車でのアクセス



横浜まで **7分**



品川まで **8分**



羽田空港まで **13分**

- ★首都圏の中央部に位置
- ★羽田空港に隣接

※表記の時間は電車を利用した場合の最短時間

# 川崎市の人口 ～住む人が増え続けるまち～

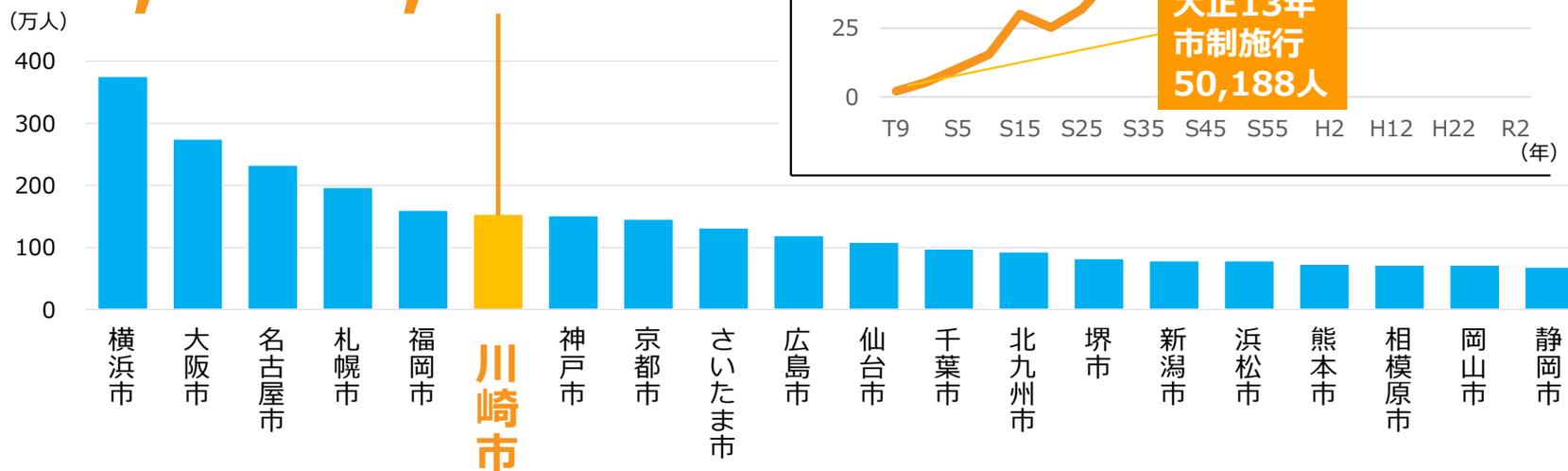
## ● 人口（人）

（2024年4月1日現在 各都市推計人口）

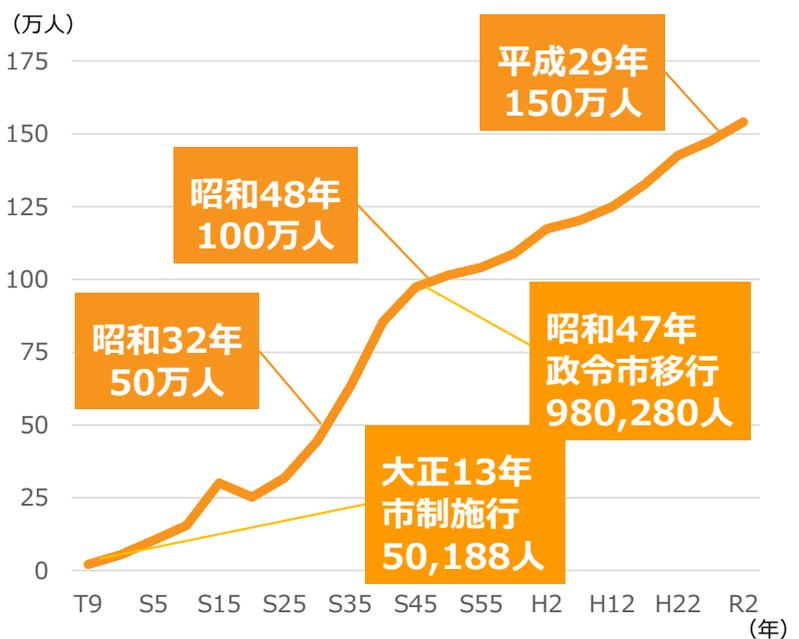
### 政令指定都市で 第6位

令元年5月に神戸市を逆転

# 1,548,254 人



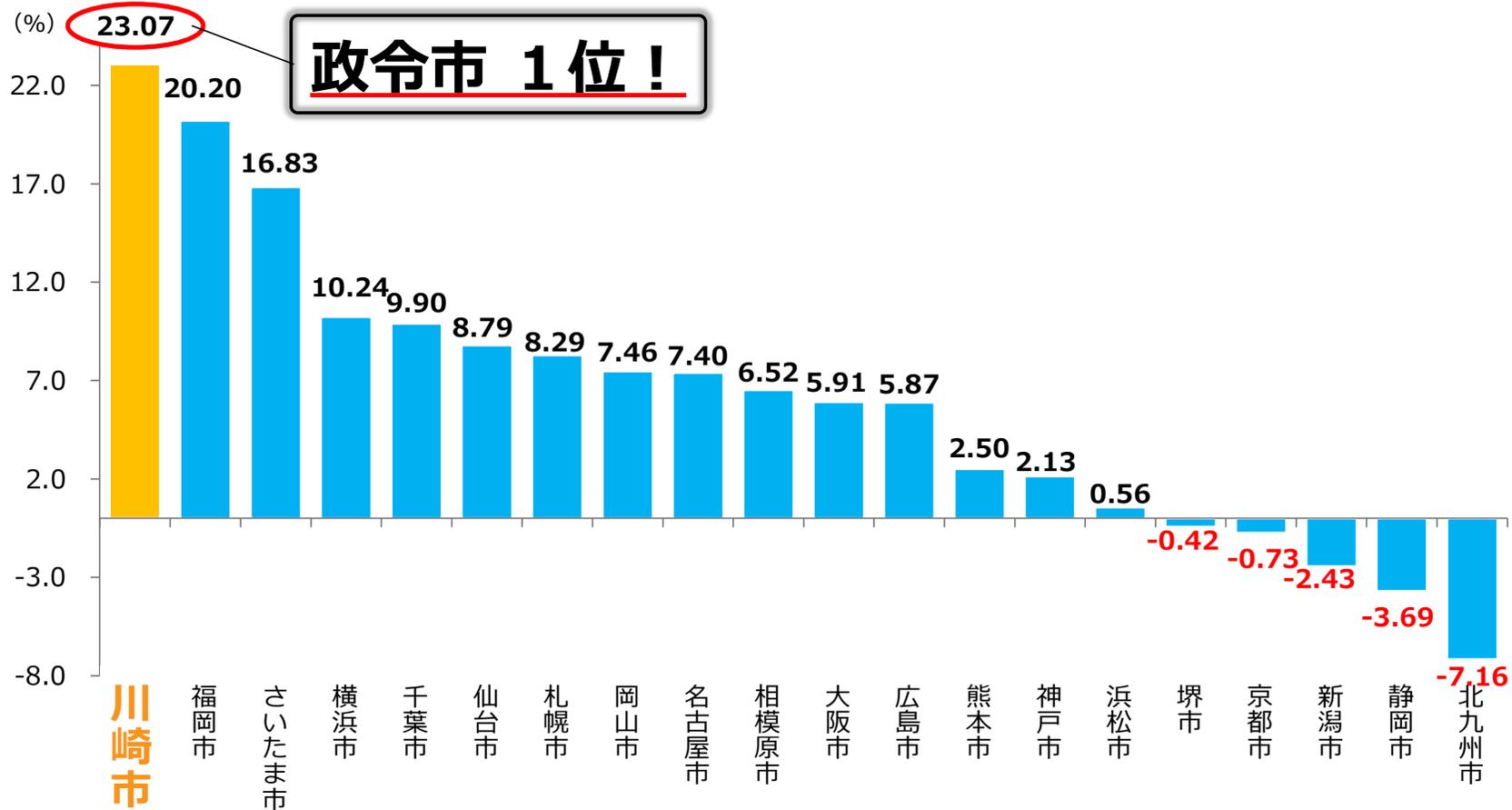
## ● 人口の推移（国勢調査結果及び推計人口）



# 川崎市の人口 ～住む人が増え続けるまち～

## ● 人口増加率（過去20年間）（%）

（令和2年、平成12年国勢調査）



# 川崎市の特色 ～若い人が多いまち～

## ● 平均年齢（歳） （令和2年国勢調査）

第1位



43.7 歳

大都市で最も若い！

1位	川崎市	42.8
2位	福岡市	43.1
3位	仙台市	44.3
4位	さいたま市	44.3
5位	広島市	44.4



## 自己紹介



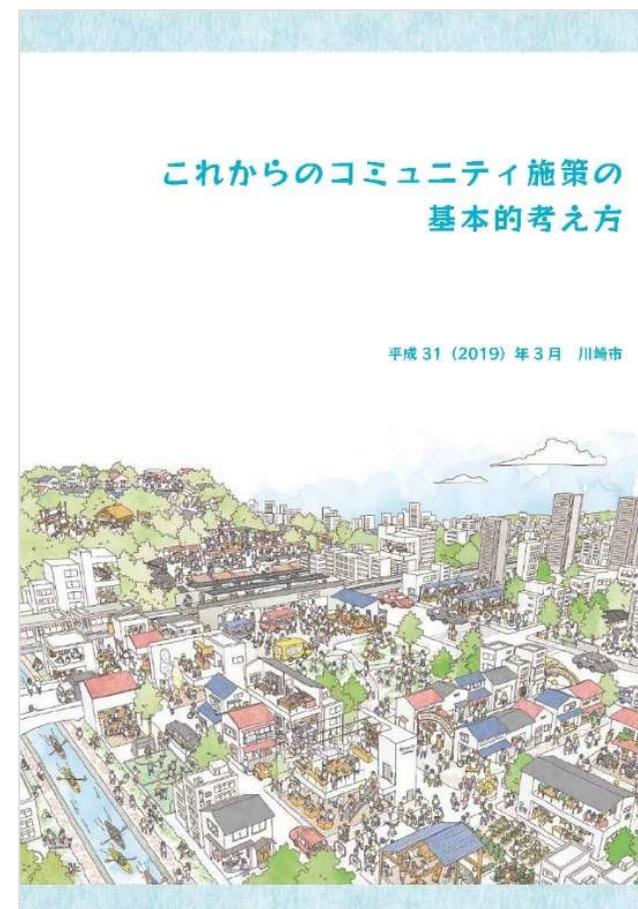
中村 茂 公益財団法人川崎市文化財団理事長

川崎生まれの川崎育ち。民間企業勤務を経て、1988年川崎市役所へ。宮前区役所を皮切りに、総務局、環境局、高津区役所、総合企画局、子ども未来局などを経て、2021年から市民文化局長、2024年に退職。その間、自治基本条例、市民活動支援、コミュニティ施策、文化行政、環境まちづくりなど、参加と対話、現場主義を大切にしながら、いくつかの事業に関わってきた。この6月から公益財団法人川崎市文化財団理事長。最近は哲学対話にはまっている。

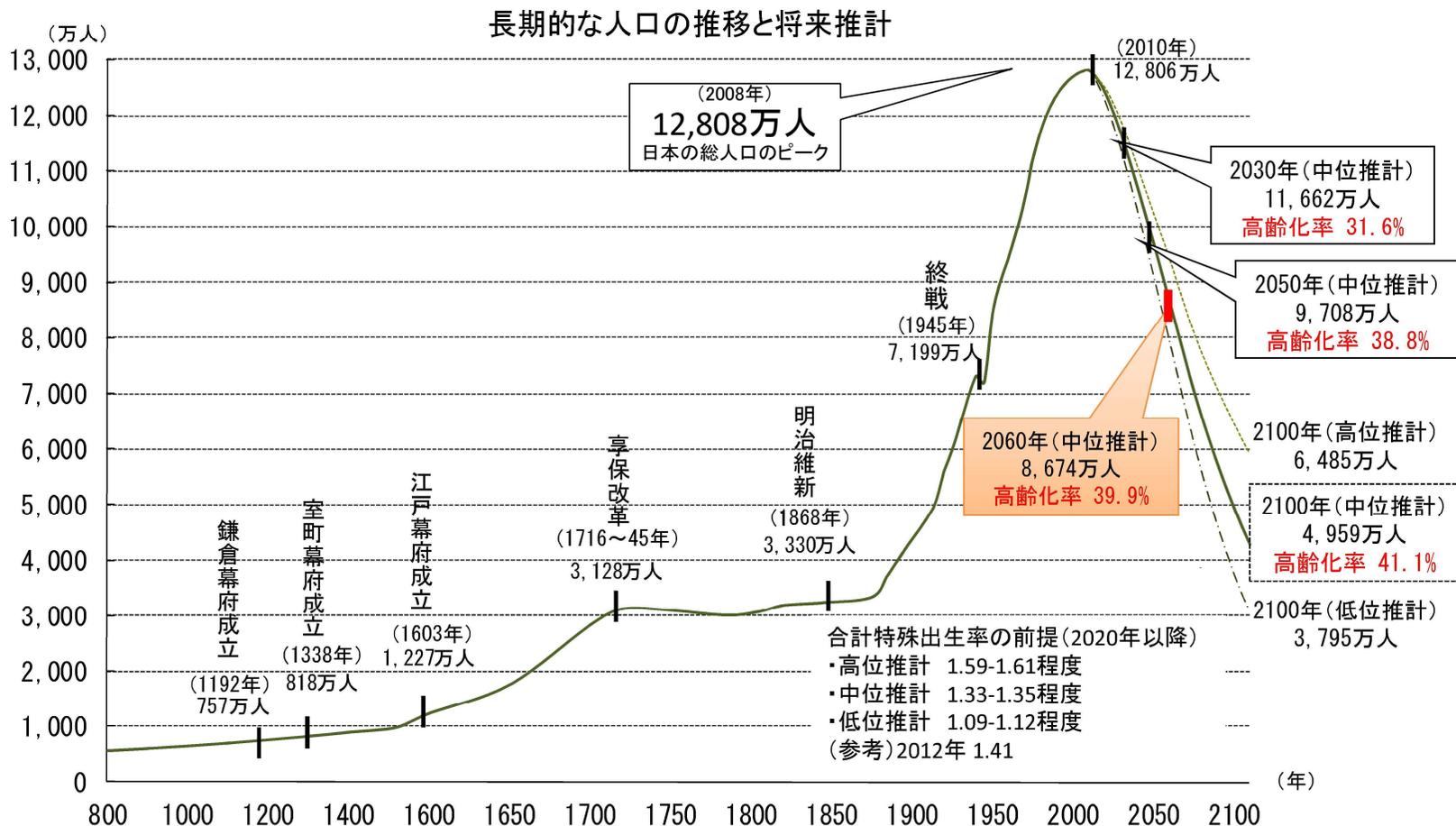
# 暮らしを取り巻く環境の変化

## ● 策定の背景

- ① 超高齢化と人口減少社会の到来
- ② 地域コミュニティの希薄化  
～コミュニティデザインの行方～
- ③ 新たな公共サービスの模索  
～揺らぐ公共概念と新たな公共空間の創造～
- ④ 新しい「豊かさ」  
～ポスト成長時代における「豊かさ」とは～
- ⑤ 持続可能性への挑戦  
～「サステイナブル・シティ」と政策統合～



# 超高齢化と人口減少社会の到来



(備考) 国土交通省「国土の長期展望」(2011年)をもとに作成。

2010年以前の人口: 総務省「国勢調査」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)

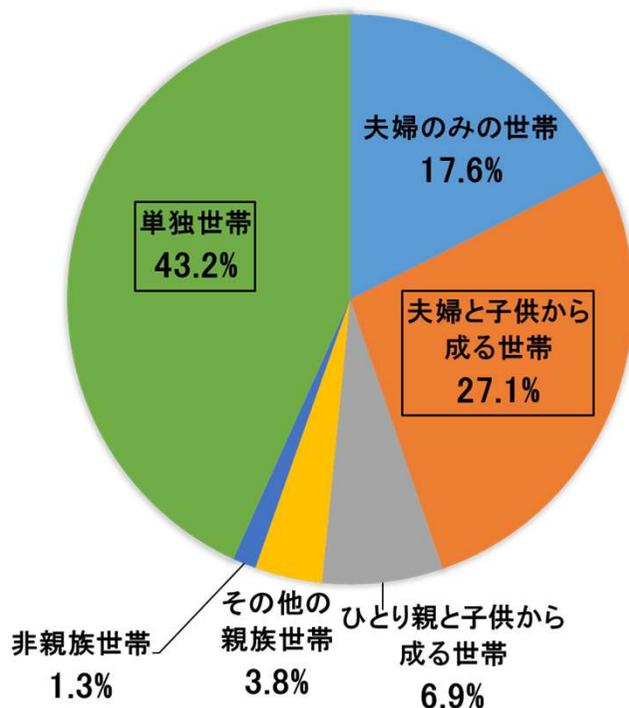
それ以降の人口: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」

内閣府資料から

# 川崎市の世帯構成 増える「単独世帯」

(世帯数)

一般世帯数	夫婦のみの世帯	夫婦と子供から成る世帯	ひとり親と子供から成る世帯	その他の親族世帯	非親族世帯	単独世帯
681,701	119,855	184,855	47,026	26,211	9,106	294,648



## ■「夫婦と子供から成る世帯」の推移

・1985(昭和60)年 40.5%



・2015(平成27)年 27.1%

## ■「単独世帯」の推移

・1985(昭和60)年 32.4%

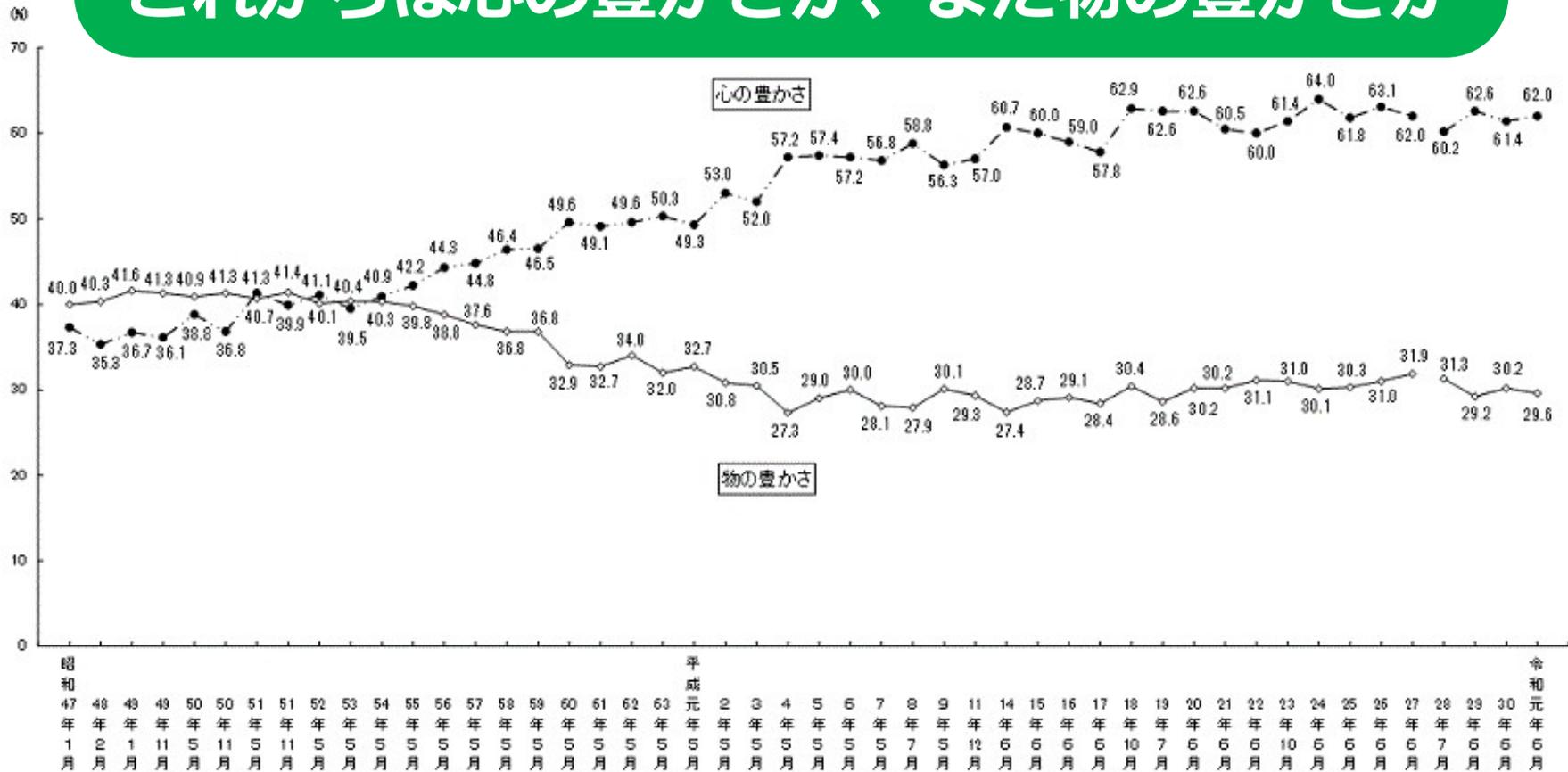


・2015(平成27)年 43.2%



※2015(平成27)年国勢調査

# これからは心の豊かさか、まだ物の豊かさか



(注1) 心の豊かさ → 「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさをゆとりのある生活をするに重きをおきたい」  
物の豊かさ → 「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」

(注2) 平成27年6月調査までは、20歳以上の者を対象として実施。平成28年7月調査から19歳以上の者を対象として実施。

1970年代後半に、精神的豊かさを重視する人が物質的豊かさを重視する人が上回り、1979年以降、その差は年々拡大傾向にある 内閣府「国民生活に関する世論調査

# 社会が複雑になっていく未来

様々な要素や価値観が混ざり合っていてこれからも複雑になり続ける。

## 超高齢化

少子化 ヤングケアラー

孤立・孤独

ダブルケア

都市の空洞化

コロナ禍

新たな格差

差別と分断

## 人生100年時代

おひとり様

代行サービス

テレワーク

ダイバーシティ

ロハス

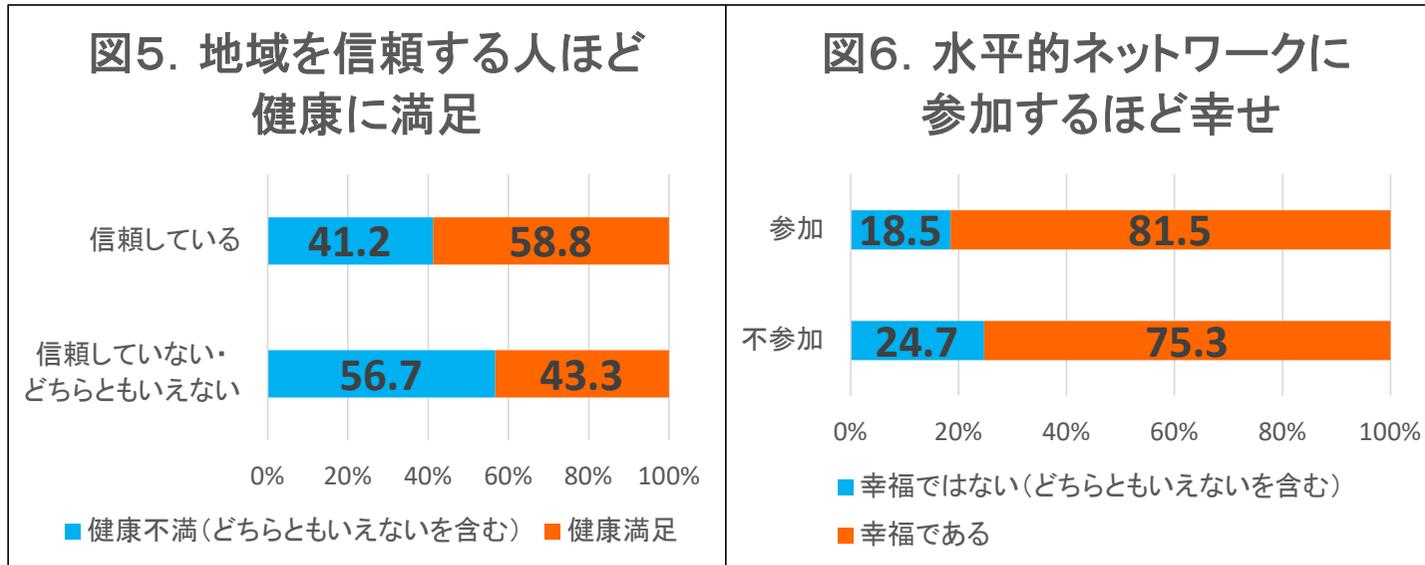
個人の発信

シェアリング

SNS

ミュニシパリズム  
フィアレスシティ

## 川崎市の地域包括ケアシステムに関する市民意識・実態調査



出典：東京大学文学部社会学研究室による調査結果

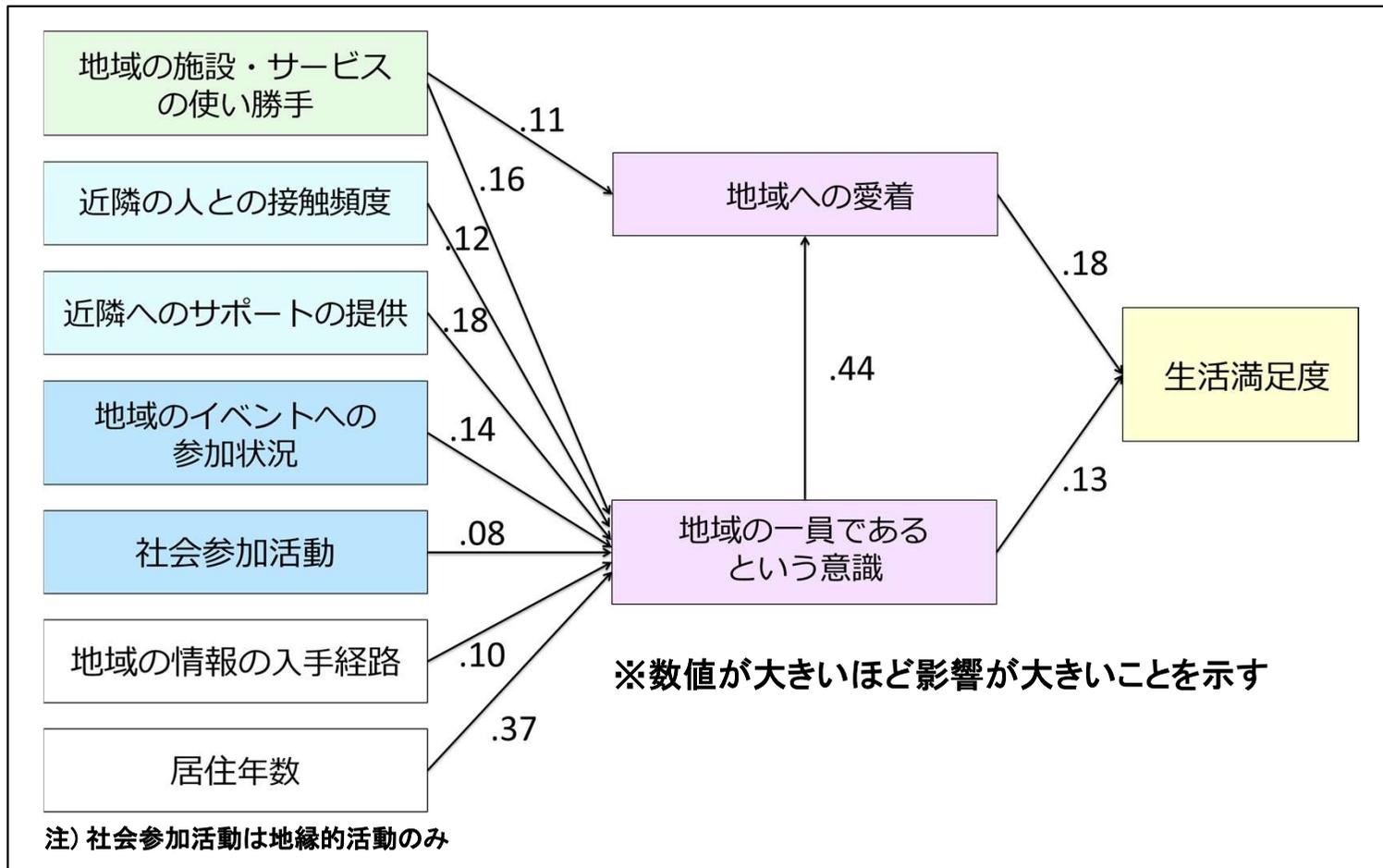
### 【調査結果】

- ・地域信頼が高い人ほど健康に満足している
- ・水平的ネットワーク（ボランティア、スポーツ、趣味などのグループのいずれか）に参加している人ほど、幸福度が高い。



「地域のつながりが豊かな地域をつくる」ということが明らかになりつつある。

# 高齢者における地域環境、社会とのつながりが幸福感に与える影響



出典：慶應義塾大学高山緑教授らによる調査

これからのコミュニティ施策の  
基本的考え方

平成 31 (2019) 年 3 月 川崎市



第 1 章 策定の目的と背景

第 2 章 川崎市におけるコミュニティの現状と課題

第 3 章 基本理念と今後の方向性

第 4 章 「新たなしくみ」の構築に向けた今後の取組

第 5 章 市民創発に呼応する行政のあり方

第 6 章 これからの検討課題と今後の進め方

川崎市「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」 2019年3月策定

## 基本理念

### 「市民創発」による市民自治と多様な価値観を前提とした 「寛容と互助」の都市型コミュニティの形成

市民自治と多様な価値観を前提とし、様々な主体の出会いとその相互作用によって、新たな価値を生み出しながら変化を促し、地域の課題をしなやかに乗り越え、その具体的な解決を導く「市民創発」へのパラダイムシフトにより、多様なつながり(ソーシャルキャピタル)や居場所を創出しつつ、幸福度が高く、誰もが認められる社会的包摂の進んだ持続可能な都市型コミュニティを目指すという将来像を「希望のシナリオ」として掲げ、その実現に向け、総合的に施策を展開していく。



「希望のシナリオ」: イスナデザイン

イスナデザイン「希望のシナリオ」

## これまでのコミュニティ関連施策の主な経過

### 都市計画・まちづくり



### 公園緑地・河川



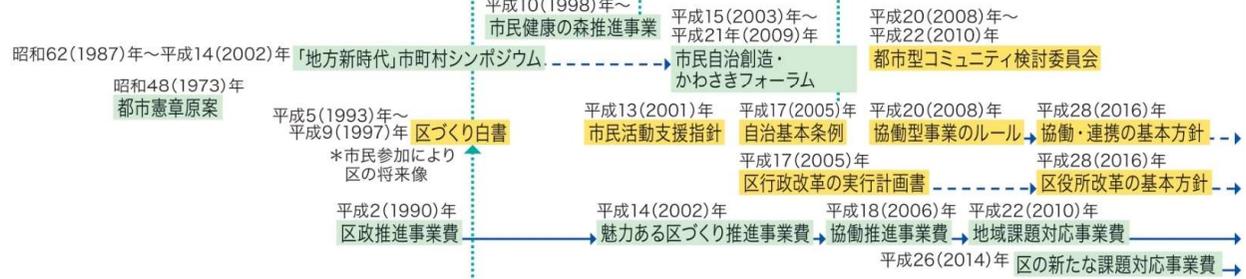
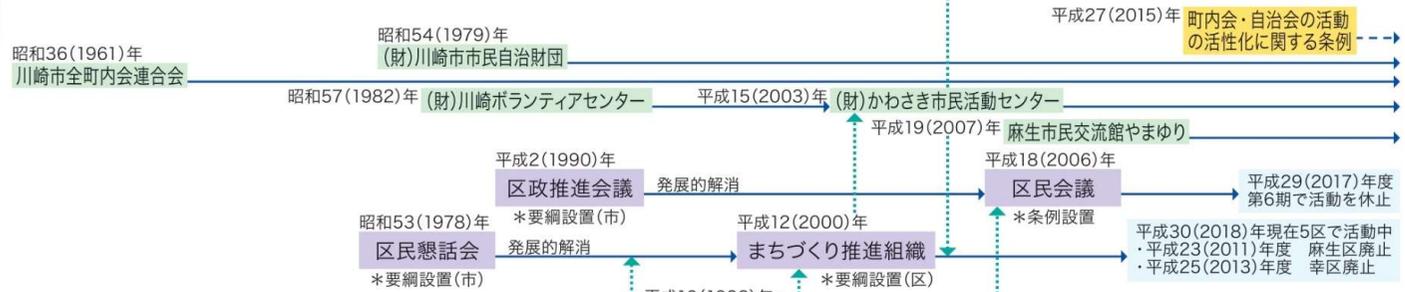
### 多文化



### スポーツ



### 市民自治



### 総合計画



「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」策定過程

平成29年度 (2017年度)	市民参加・意見聴取等	庁内検討
4月	「川崎市共に支え合う地域づくり検討委員会」報告書に基づき、検討	
5月	「川崎市共に支え合う地域づくり検討委員会」報告書を踏まえた今後の検討について	第1回区総合行政推進会議 5月16日(火)
6月		
7月		企画調整連絡会議 8月1日(火) 政策・調整会議 8月7日(月)
8月	「(仮称)今後のコミュニティ施策の基本的考え方」検討方針	
9月	各区区民会議委員への区民会議休止に関する説明 (各区区民会議全体会議及び専門部会等へ全11回)	
10月	かわさき市民アンケート (市民自治の実態について) 有効回収数1,500標本	庁内検討部会準備会(課長級) 10月24日(火)
11月	まちづくり推進組織関係者によるワークショップ (全3回) ・11月6日(月) ・11月27日(月) ・1月17日(水) 述べ123名参加	庁内検討部会準備会(部長級) 11月2日(木)
12月	区民会議委員へのアンケート調査 回答者数185名	町内会・自治会アンケート 有効回答件数493件
1月		
2月	区民会議意見交換会 2月2日(金) 42名参加	第1回庁内検討部会(課長級) 2月22日(木)
3月		第1回庁内検討会議(部長級) 3月8日(木)

平成30年度 (2018年度)	市民参加・意見聴取等	有識者会議	庁内検討
4月	「(仮称)今後のコミュニティ施策の基本的考え方」に関する取組状況について		
5月	町内会・自治会との意見交換会 ・5月9日(水) 中原区 ・6月13日(水) 麻生区 ・6月18日(月) 幸区 ・6月27日(水) 宮前区 ・7月5日(木) 川崎区 ・7月6日(金) 高津区 (高津地区)	第1回有識者会議 5月28日(月)	第1回区総合行政推進会議 4月20日(金)
6月			第1回庁内検討部会(課長級) 6月27日(水) 第1回庁内検討会議(部長級) 7月5日(金)
7月	・7月10日(火) 多摩区	第2回有識者会議 7月9日(月)	コミュニティ施策意見交換会兼第2回区総合行政推進会議 7月17日(火) 職員ワークショップ 7月23日(月)
8月	市民検討会議WSの開催 ・8月4日(土) 中原区 ・8月5日(日) 宮前区 ・8月18日(土) 麻生区 ・8月19日(日) 高津区 ・9月8日(土) 多摩区 ・9月15日(土) 川崎区 ・9月16日(日) 幸区 延べ210名参加	第3回有識者会議 8月3日(金)	
9月		第4回有識者会議 9月13日(木)	
10月		第5回有識者会議 10月3日(水)	第2回庁内検討部会(課長級) ※依頼時に意見照会を実施 10月23日(火) 第2回庁内検討会議(部長級) 10月26日(金)
11月	パブリックコメントの実施 ・11月19日(月) ~1月4日(金) 団体等への出前説明会 ・11月2日(金) ~	<b>素案の公表</b>	企画調整連絡会議 10月31日(水) 第3回区総合行政推進会議兼政策・調整会議 11月6日(火)
12月	全市シンポジウム 12月9日(日)		
1月		第6回有識者会議 1月29日(火)	第3回庁内検討部会(課長級) 2月26日(火) 第3回庁内検討会議(部長級) 3月7日(木)
2月	区ごとに市民創発型の新たなしくみづくりに向けた取組 (ワークショップ、意見交換会など)		企画調整連絡会議 3月14日(木) 第4回区総合行政推進会議 3月19日(火) 政策・調整会議 3月22日(金)
3月		<b>策定・公表</b>	

### 川崎市コミュニティ施策検討有識者会議

コミュニティ施策の基本的考え方およびコミュニティ施策の基本的考え方に基づく施策推進の進捗状況に関し、学識経験者による市民意見の整理や専門的知見から助言をいただくために有識者会議（懇談会）を設置しました。

氏名	肩書
小島 聡	法政大学人間環境学部教授
後藤 純	東京大学高齢社会総合研究機構特任講師
谷本 有美子	公益社団法人神奈川県地方自治研究センター理事・研究員

(50音順)

#### 【第1回】

日時 平成30(2018)年5月28日(月)午後4時30分～7時00分

- 議事 1 これまでの経緯と今後の進め方  
 2 コミュニティ施策の目指すものについて  
 3 個別の項目(3つの施策)について  
 (1) 区域レベルのこれからの中間支援機能について  
 (2) 地域レベルの居場所づくり・プレイスメイキングについて  
 (3) 町内会・自治会について

#### 【第2回】

日時 平成30(2018)年7月9日(月)午後4時00分～6時40分

- 議事 1 議事録の確認および前回の論点整理と対応について  
 ・前回議事録の確認  
 ・これまでのコミュニティ施策の経過と地域の現状と課題  
 ・「(仮称)今後のコミュニティ施策の基本的考え方」を考えるにあたって  
 2 地域レベルの居場所づくり・プレイスメイキングについて  
 3 区域レベルにおけるプラットフォームの機能について

#### 【第3回】

日時 平成30(2018)年8月3日(金)午後1時30分～4時30分

- 議事 1 議事録の確認及び前回の論点整理と対応について  
 2 町内会・自治会に関するコミュニティ施策について  
 3 マンションコミュニティに関するコミュニティ施策について  
 4 市域レベルのコミュニティ施策について

#### 【第4回】

日時 平成30(2018)年9月13日(木)午後3時00分～5時30分

- 議事 1 市民検討会議ワークショップ(8月開催分)の報告について  
 2 議事録の確認及び前回の論点整理と対応について  
 3 既存施策の方向性について  
 4 「今後のコミュニティ施策の基本的考え方」(素案)の骨子案について

#### 【第5回】

日時 平成30(2018)年10月3日(水)午後4時00分～6時30分

- 議事 1 市民検討会議ワークショップの報告について  
 2 議事録の確認及び前回の論点整理と対応について  
 3 「これからのコミュニティ施策の考え方」(素案)について



#### 【第6回】

日時 平成31(2019)年1月29日(火)午前9時30分～11時30分

- 議事 1 全市シンポジウムの報告について  
 2 パブリックコメントの報告について  
 3 「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」の策定に向けて

### 市民検討会議ワークショップ

「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」について、有識者会議における意見聴取と並行して、各区でワークショップ形式の市民検討会議を開催し、そこで出た意見等を反映させました。

	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
開催日	9/15	9/16	8/4	8/19	8/5	9/8	8/18
開催場所	unicourt	新川崎タウンカフェ	中原区役所会議室	にこぶら新地	宮前区役所会議室	多摩区役所会議室	麻生区役所会議室
参加者	35名	25名	30名	26名	34名	30名	30名
グループワークのテーマ	①「こうなったらいいと思う10年後の地域の姿」を出し合おう ②「こうなったらいいと思う10年後の地域の姿」を実現させるためのアイデアを出し合おう						

#### 当日の様子



## 「基本的考え方」に基づく現時点の主な施策

「まちのひろば」  
への支援

ソーシャル  
デザイン  
センター

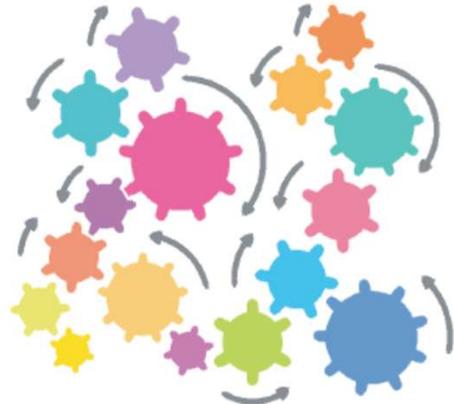
町内会・自治会  
支援

地域デザイン  
会議

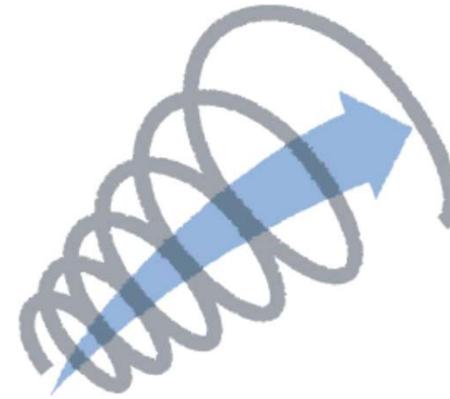
川崎市役所  
の意識改革

# 「市民創発」とは

## ■「市民創発」のイメージ



他者との出会い・共感の連鎖反応 ⇒ 変革へ



連続する動的変化



自由で対等なネットワーク

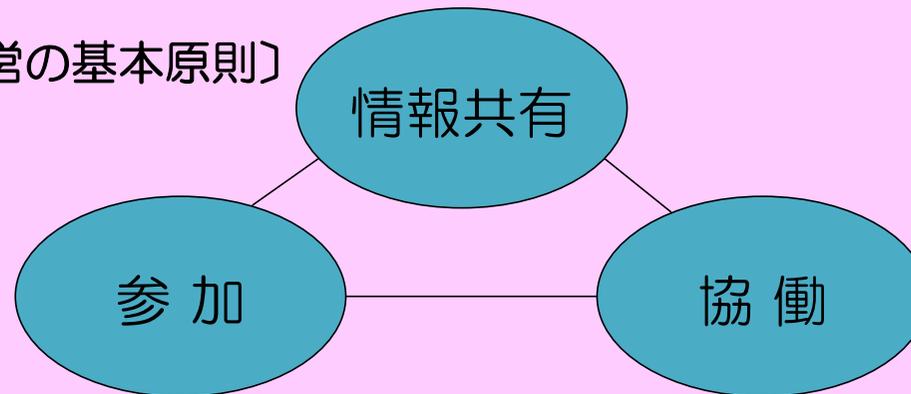


Point

## 【川崎市自治基本条例】

市民が主役の市民自治を確立するため、自治の基本理念を明らかにし、自治を営むための3つの基本原則を定めています。

〔自治運営の基本原則〕

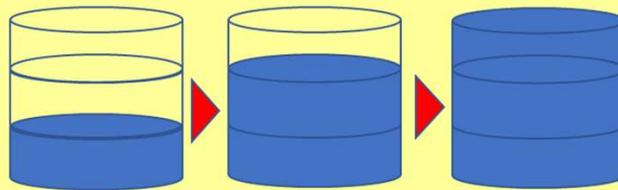


川崎市自治基本条例に基づくこれまでの取組を深化させ、この「基本的考え方」を踏まえ、新たに「市民創発」という考え方を共有し、より複雑化する地域課題に対応していきます。

# Point

最初に枠組を定めて、それに合わせるように予算や機能を当てはめるのではなく、まずはスモールスタートで始める中、トライアンドエラーで様々な必要な要素を組み合わせ、余白のデザインを残しつつ、試行錯誤しながら大きな形をめざします。

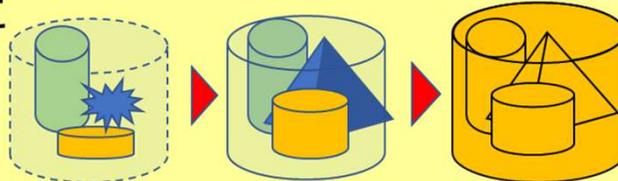
## • これまでの行政手法



3年間で段階的に整備する

- 計画的に進行
- 硬直的・安定感
- 先が見通せる
- きっちり感
- 行政主導で実施

## • 今回のやりかた



仮に結果は同じでも、プロセスは異なる

スモールスタート & トライアンドエラー

- 計画性が低い
- 流動的・不安定
- 先行き不透明
- ワクワク感
- 自分たちで創造



## 「まちのひろば」とは？

- 「まちのひろば」とは、誰もが気軽に集まれ、多様なつながりを育む地域の居場所のこと。
- 身近なところに「まちのひろば」が沢山できると、課題解決や健康づくり、支え合い等につながるため、未来の川崎市に必要なものと考えています。



## ソーシャルデザインセンターとは？

多様な主体の連携により、地域での様々な新しい活動や価値を生み出し、社会変革（ソーシャルイノベーション）を促す基盤（プラットフォーム）のこと。

### 【考えられる主な機能】

- ・ 人や団体、企業、資源、活動をつなぐコーディネート機能とプロデュース機能
- ・ 支援のニーズとメニューの効果的なマッチング
- ・ 地域課題の解決を目指した社会実験の展開
- ・ 地域からの視点や市民の立場に立ち、助言や専門的知識を活かした技術的支援、課題提起等を行う機能
- ・ 人材育成 ・ 「まちのひろば」への支援 ・ 情報の受発信
- ・ 新たな参加、交流のきっかけづくり
- ・ 各区の特性に応じて必要とされる機能 など

## 「(仮称)まちのひろば」



・リビングラボ ・フューチャーセッション ・カフェ、サロン ・まちの\_snack、居酒屋 ・マルシェ ・サークル活動  
 ・まちの図書館 ・読書会 ・男の料理教室 ・空き家、空き部屋、空き店舗、空き地 ・公園 ・道路、河川 など

・相談 ・コーディネート ・マッチング ・場づくり支援 ・助言  
 ・人材育成支援 ・資金調達支援 ・課題解決支援 ・広報支援 など

## 「(仮称)ソーシャルデザインセンター」

### 求められる機能

- ・人や団体・企業、資源・活動をつなぐコーディネート機能とプロデュース機能
- ・支援のニーズ（活動支援、資金援助、相談、情報収集）とメニューの効果的なマッチング
- ・人材育成（地域の担い手や社会的起業家など）
- ・地域メディアやソーシャルメディアを活用した情報の受発信
- ・新たな参加、交流のきっかけづくり
- ・各区の特性に応じて必要とされる機能
- ・フューチャーセッションなど対話の場づくり
- ・実践的な活動をつくる場
- ・やわらかなつながり 等

企業

観光協会

市民

教育  
研究機関

社会福祉法人  
医療機関  
介護サービス事業者  
など

商店街  
商業施設

プロボノ

起業家

NPO  
市民活動団体

市区役所

公共公益的組織等  
区町内会連合会  
社会福祉協議会  
地域教育会議  
区PTA協議会  
など

金融機関

地域  
小学校区  
エリア  
など

区域  
行政区  
エリア

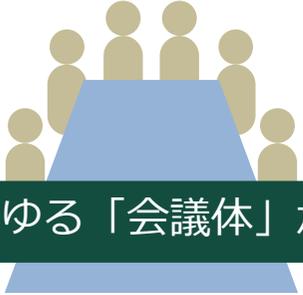
## 地域デザイン会議の方向性

これまでの区民会議のリニューアルに向けて、それぞれの区に地域デザイン会議を設けて試行実施に取り組んできた。

⇒試行実施を踏まえ「川崎市地域デザイン会議運営指針」を策定し、2024年度から本格実施を開始。

### 【取組の方向性】

- ① より多くの市民が関わり参加しやすい機会の拡充
- ② 弾力的に運用できる柔軟なしくみ
- ③ 地域コミュニティにおける支えあう関係づくりと、市民創発型の課題解決を推進



いわゆる「会議体」から…



柔軟で様々な場へ参加の場へ

## 町内会・自治会支援

しかし、行政からの多くの依頼事務を担ってきたことが、本来の住民自治活動を阻害する要因の一つとなっている。

行政都合であった関係性を見直し、  
真のパートナーシップを築く

住民自治組織としての機能

⇒本来有する機能を果たすための支援強化を実施

行政からの依頼事務の担い手としての機能

⇒受任機能の再考、及び負担軽減の実施

町内会・自治会活動  
応援補助金創設

町内会・自治会への  
依頼ガイドライン施行

# 市民創発に呼応する行政のあり方

## 1 行政スタイルや組織のあり方

### (1) 既存の分野別計画等の整理・検討と政策統合への模索

⇒コミュニティ施策の観点から、より良い地域づくりに向けた縦割り行政の解消へ

### (2) 「質的改革」と新たな行政スタイルの構築に向けて

⇒行政が担うべきこれからの役割に相応しい新たな自治体像の構築へ

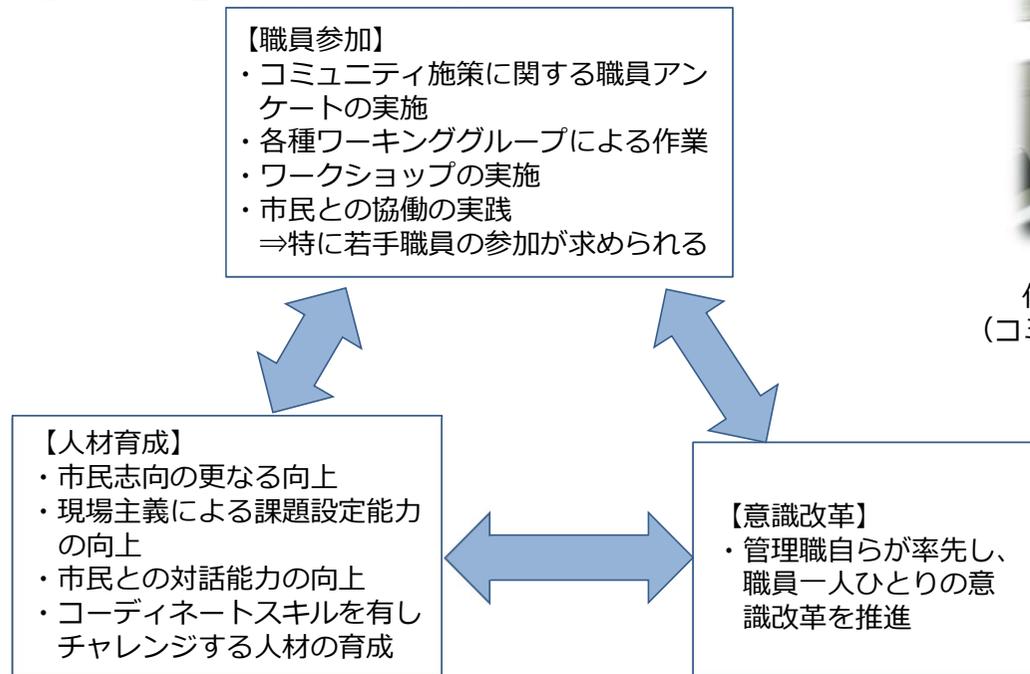
### (3) 徹底したプロセス重視と新たな参加手法の導入

⇒地区カルテの協働作成や各種参加手法の導入へ

# 市民創発に呼応する行政のあり方

## 2 職員の意識改革や人材育成

### (1) 職員参加と意識改革の推進



係長・職員級によるグループワーク  
(コミュニティ施策担当者ワークショップ)

### (2) 政策形成能力と実行力の向上

- ・姿勢、態度と、知識、技術のそれぞれを能力と捉え、向上させていく

- **社会的孤独と「つながり」の重要性**
- **多様なつながりを育む地域の居場所「まちのひろば」の可能性、ケアの社会化に向けて**
- **地域での新たな活動や価値を生み出し、社会変革を促すプラットフォームとしてのSDCのこれから**
- **区民会議の成果とその限界、参加の制度としての地域デザイン会議へ**
- **「複雑な問題」、計画行政の限界と「測りすぎ」「ブルシットジョブ」、「余白のデザイン」の重要性**
- **行政機能の相対化、多元的な市民自治の地域社会へ**